



写真1 3月郵政省現地視察時、小学校校庭にて

じゃっど会員の皆様、

いかがおすごしですか。私は昨年8月からタイ、バンコクの Mahidol (マヒドンと読みます。)大学の大学院で学生をしています。17ヶ国からの31人の同級生は平均年令が39才です。いくつかの授業はアメリカ合衆国のチューレン大学から8人の若い大学生が参加しました。ここでの授業がチューレン大学では、単位として認められています。

プライマリーヘルスケアについて勉強しています。プライマリーヘルスケアは、「病気になったら医療機関へ行くという医療ではなくて、一般の人々の意識を高めて病気を予防していくことで世界の人々が健康に暮らせるようにしましょう。」というような趣旨で始まりました。

“じゃっど”はラオスで、学校保健に関わる事業を続けていますが、ただ闇雲に動いてきたように思います。より良い活動になるようにと考えてここに勉強にきました。でも、勉強した知識を行動に移すことの難しさを感じているこのごろです。もう少し時間を頂いて、少しずつ、じゃっどの活動を改善していきたいです。

いろんな職種がいて、良い活動に結びついているという評価を頂いた“じゃっど”です。会員の皆様から、いろんなご意見をいただきたいです。どうぞ、よろしくおねがいいたします。(帖佐理子)

本年度も郵政省ボランティア貯金寄付金の配分をいただくことができました。連続5年以上配分金を受けている団体の見直しのあるなか7年連続で配分を受けることができましたのは、全国の会員の善意の会費、寄付金、机いす募金の資金援助があったこと、代表者帖佐理子とラオスのスタッフのソムチット、コンサップご夫妻の連帯がうまくいき活動が認められているからではと思います。全国的に配分金は減少しておりじゃっども申請額よ

り配分金は少ないでした。配分金 1,097 千円はラオス学校保健セミナー開催費用、ミルク、医薬品購入費等に使われます。

この 1 年間を振り返りますと、国内の活動は川内市内のスタッフが各自の仕事をしながらボランティアでやって参りました。国外の活動は 11 月にはラオス視察ツアー、11 月～1 月には専門家派遣、3 月には郵政省現地視察、現地調査と代表者帖佐理子が休暇を利用してたびたびラオスに足を運んでこれからのプランを立てて参りました。

平成 12 年度(平成 12 年 7 月 1 日～平成 13 年 6 月 30 日)もご支援宜しく申し上げます。配分通知式の様子が 6 月 16 日の南日本新聞に紹介されました。全国の各郵便局に配分団体、配分内容等のパンフレット、月刊誌「地球市民」等あります。ご利用下さい。

多くの方々のご支援で活動が出来ましたことに感謝致します。(事務局：宮脇美智子)

ボランティア貯金寄付金

川内NGOに109万円

郵便局の二〇〇〇年度国際ボランティア貯金寄付金の配分先に、県内ではただ一つ川内市のボランティア団体「JADDO」(帖佐理子代表)が決まった。八日、同市の川内郵便局で通知式があり、吉田武男局長から「みなさまの善意を有効活用してください」と若松郁子副会長に目録が手渡された。

国際ボランティア貯金は、希望する預金者が通常貯金の利の一部を寄付するという仕組み。寄付金は、アジアやアフリカなどで農村の整備などを実施している。七年連続で配分を受けており、今回の百九万七千円もそれらの活動に充てられる。

国際ボランティア貯金は、希望する預金者が通常貯金の利の一部を寄付するという仕組み。寄付金は、アジアやアフリカなどで農村の整備などを実施している。七年連続で配分を受けており、今回の百九万七千円もそれらの活動に充てられる。



配分金の目録を受け取るJADDOの若松郁子副会長(左)

(南日本新聞 6 月 16 日付け記事より)

ラオス学校保健教育への教師等ボランティア活動派遣

改善への第一歩として、学校の先生達にじゃっどの保健授業を見ていただくことにしました。8 月の 10 日～20 日の予定です。学校の先生、特に海外青年協力隊 OB.OG にお願いしたいと考えたので、広く公募とはしませんでした。ごめんなさい。

予定表などを載せます。ただ、5 月末から、ヴィエンチャンで、何件か爆弾騒ぎが起こっています。レストラン、ローカルバス、市場などで手榴弾のようなものが爆発しているのです。ラオス政府は今年 2000 年を観光年として外国からの観光収入を増やそうと数年前から準備をしてきていました。反政府活動なののでしょうか。しかし、ローカルバスなどが対象になったりで特に外国人を狙っているわけではなさそうです。モン族の活動か、とも言われましたが、「我々は関係無い。」とインターネット上で広報しているらしいです。ヴィエンチャンに住んでいるラオス人、日本人に聞いてみると、「特に変わりなく暮らしている。」とのことですが、7 月に日本に帰国前にヴィエンチャンへ行って様子をみてきます。

8 月のほかに、希望者が数人集まれば 11 月のいつものツアーも計画します。

(帖佐理子)

ラオス学校保健教師等派遣団行程予定表（案）

		宿泊
第1日 10日 (木)	鹿児島 発 福岡 着 福岡 12:00 発 TG バンコク 15 時 50 着 バンコク 17 時 45 分発 TG142 チェンライ 19 時 05 分着	チェンライ
第2日 11日 (金)	ミニバスで ChangKhong へ（約 150km）、 フェリーでメコン川（国境）を越えラオスの Huay Xay へ HuayXay で授業参観 保健局長、教育委員会挨拶他	Huay Xay 泊
第3日 12日 (土)	Huay Xay ー 国境越えてミニバスで タイ ChangKhong へ チェンライ チェンライのナイトバザール	チェンライ
第4日 13日 (日)	メーサーイ - 国境を歩いて越えミャンマーで 1 時間ほど過 す。ゴールデントライアングル見学 チェンライ 19:50 発 バンコク 21:05 着	バンコク SARA Hotel
第5日 14日 (月)	バンコク 11 時 10 分発 ー ウドンタニ 12 時 15 分着 ウドンタニからミニバスでノンカイ、メコン川の友好橋を渡 りヴィエンチャンへ ヴィエンチャンの小学校訪問、	ヴィエンチャン
第6日 15日 (火)	セミナー第1日 開会式 ヴィエンチャンの小学校教師の授業参観、 ヴィエンチャン先生達を対象にラオスの医師、教師が授業	ヴィエンチャン
第7日 16日 (水)	セミナー第2日 ヴィエンチャン先生達を対象にラオスの医師、教師が授業 ヴィエンチャン先生達を対象に日本の教師が授業	ヴィエンチャン
第8日 17日 (木)	セミナー第3日 参加した教師が、発表授業まとめ 閉会式 ヴィエンチャン 20 時 00 発 Qv 4 1 5 バンコク 21 時 10 分着	バンコク SARA Hotel
第9日 18日 (金)	バンコク、ワットアルン、水上船で王宮寺、ワットポー、 等 自由行動 夕刻 アユタヤ	
第10日 19日 (土)	バンコク シーロムヴィレッジで夕食、シーロム通り、パッポンなどで 夜店を見る。等 自由行動	
第11日 20日 (日)	帰国：バンコク 22:30 発 JL718 成田 06:20 着 バンコク 01:20 発 TG648 福岡 08:00 着 福岡 発 鹿児島 着 (鹿児島 発 永良部 着)	

上記のような計画です。

ツアー参加者：田邊ツル子先生、山田浩美先生、宇津木和夫様、宇津木和子様
森田正人医師、小幡順子先生、帖佐理子（じゃっど代表）以上

2月5日にじゃっどツアー報告会をひらきました。

ご参加ありがとうございました！

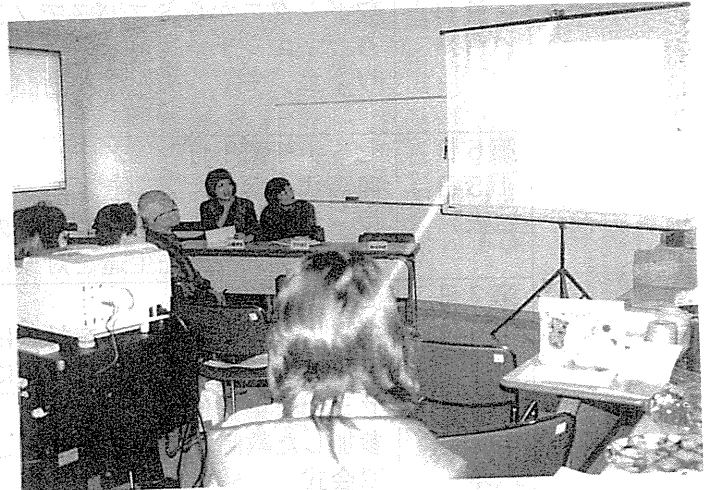
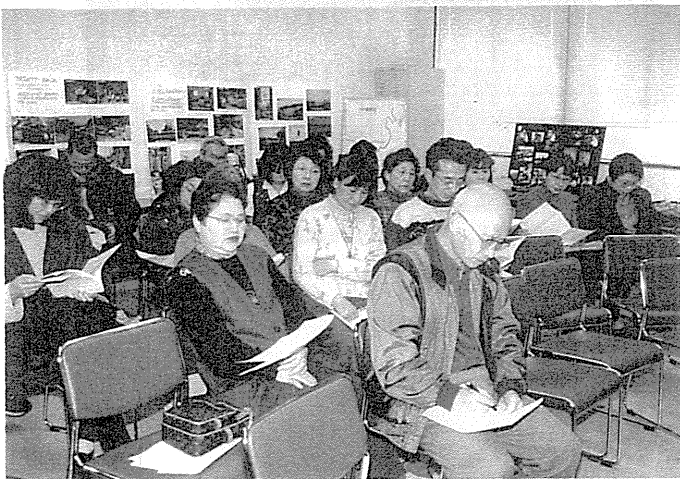
最初に、ビデオ（8月の視察時に撮影）を見ながら中村律子さん、小幡順子さん、それにこの会の為に名古屋からかけつけてくださった多々良友加さんの3名から現地のじゃっどの支援している学校の実状、問題点、これからの課題等の報告がありました。

次に、青山カンピューさんからラオス国の歴史についてお話をいただきました。

青山さんご一家はこの会の為に鹿児島市からおいでいただきました。

中村さん、小幡さんの報告は前回のじゃっど新聞をごらん下さい。

この報告会のために参加してくださった会員の皆様、スタッフの皆様、そして何より報告者の皆様、有り難うございました。8月のラオス視察時に撮影しましたビデオは貸し出し致します。事務局までお問い合わせ下さい。



写真は、報告会の様子です（40名の参加がありました）

私は昨年暮から新年にかけ、再度調査、視察の為ラオスを訪れる機会に恵まれました。ですが、今回私に課せられた課題は、1992年から行なわれてきた JADDO の活動内容を評価し、改善点を探り、活動を現地に根ざす為には何をしなければならないかを検討する、という難しいものでした。12月24日関空を出発TG623にてバンコクへ。バンコクでは帖佐先生御夫妻とお会いして色々な情報やアドバイスを頂き、翌25日TG690でヴィエンチャン入りしました。空港にはコンサップ医師が迎えに来てくれており、さっそく JADDO の現地スタッフが健康診断を行なう村の小学校に向かいました。検診は、1身長、体重測定、2手指、口腔内などのチェック、3心音のチェック、を行ない簡単な指導が済んだ後、ビタミン強化ミルクを飲んでもらい鉛筆、ボールペン、ノート、JADDO 作成の子供向け保健小冊子を配布して終了です。どうすればこれだけ汚れるのかと思うほど子供達の手は汚く、虫歯の頻度も高く、相変わらず裸足の子供達が多く見受けられました。ラオスは今年30年ぶりの寒さという事で、吐く息が白くなるほどでしたが、貧困の為はおるジャケットもなく、隙間風の吹き込む学校での勉強はさぞかし辛いだろうな、と心が痛みました。今回は帖佐先生からいくつかの課題とリクエストを頂いており、それに沿って自分なりに調査、視察を進めていきました。課題、リクエストの大きさに比べると日程が非常にタイトで、又年末年始が重なった事もあって、ユニセフや WHO といった国際機関が休暇に入っており、とても期待に添えるようなものにはなりませんでした。私なりの調査結果と見解を述べていきたいと思います。調査は、①JADDO 援助対象校のうちヴィエンチャン中心部に近い10校を訪問して観察、教師にインタビュー、②各援助機関、ラオス省庁での聞き取り調査、③ラオス教育省から入手したヴィエンチャン特別区サイセッター地区34小学校のデータ分析、という形で行なっていきましたが、学校保健に関しては、各援助機関の活動と比べ、ラオス自身の動きはとても不透明な部分が多いということがわかりました。保健婦や養護教諭の位置付けもなくラオスにおいてまだその概念は浸透していません。学校もかなりの割合で給水設備、トイレを所有していますが使用されていませんでした。履物調査も鉤虫の皮膚からの感染を考慮した上での質問でしたが、靴を履いていない為、トイレに行っても便をそこで踏んでしまえばトイレが鉤虫の感染源になってしまう訳ですから、予防のはずが逆の効果になる事も十分考えられます。井戸についても蚊の発生源にさせない為にはどうするか等のメンテナンス教育が必要です。JADDO の行なった井戸の水質検査では、ほとんどの井戸で大腸菌の混入が認められており、トイレの流す水にしか勧められないのが現状です。又、援助したは良いが必ず教育とその後のフォローがなければ続いていけない事は目に見えており、ただ闇雲にセミナーを行なっても、という感があります。将来的には、JADDO の活動を行政の中に組み込ませる事が出来ればベストであるとは考えますが、現地スタッフの力量もなく、行政の活動や内部の人材も未熟でありまだまだ世界の援助機関に依存しているのが現状です。今はラオスの行政に組み込ませるよりも、各援助団体と上手く連携を取っていく方が援助合戦のような状況を

避ける事も出来、JADDO だからこそ出来る活動がより生きてくると思われます。さらに、学校保健の基盤造りと教師の育成、教材の充実という事で、少なくとも一つの学校に一人は保健の知識を持ち、それをきちんと教授できる教師を置き、保健の授業を義務付ける事が望まれます。学校保健を定着させる為には、教師に対する衛生教育と同時に教授方法についての教育が必要であり今後はセミナー受講の後、授業が実際どの様に行なわれているかを観察評価する事もあらかじめ JADDO の活動の中に組み込んでおく必要があります。最後に、地域住民への健康教育に関する広報活動を徹底しなければならないと考えます。というのも、基本的には村人のお金で学校建築がなされますので、必要性を住民にわかってもらわなければトイレ建設、給水設備の設置や補修等は行なわれないからです。それらが健康と密接な関係を持つことを JADDO の健康教育で強調し有効活用を図っていくべきだと考えます。現在ラオスは現地通貨キープの暴落で貧困がますます深刻化しています。又久しく援助の谷間という形容がなされてきたラオスでしたが、最近になって外国の NGO の活動が増加し始めており、ほとんどの NGO が米ドルで支払う援助額も貧富の差の拡大に拍車をかけています。米ドルで商売をしている業界は笑いが止まらない現実があります。その一因に、増加する一方の NGO が落とすお金があるとなれば NGO が成熟してなどと喜んではいられません。活動が大きくなればなるほど現地での影響力も増します。日本側から見た評価だけで自己満足してはいけないと考えます。ラオスに関して言えば、本来何もしないで他人の施しを待つような国民ではありません。無駄な資金の流れがラオスの良き文化や伝統、誇りを忘れさせる事のないよう私達の活動も再考する時期に来ているのではないかと思います。

実は今回、年末にヴィエンチャンで行なわれたマラソン大会をどうしても見たい、という私のわがままを帖佐先生は快く受け入れてくださり年末年始にかけての調査、視察の旅が実現しました。ラオス人とビアラオを飲みながら 2000 年のカウントダウンが出来ましたのも理子先生のおかげ、と深く感謝しております。一緒に 2000 年を迎えたラオス人というのが今回私のドライバーを務めてくれたタツちゃんという男性で、彼はコンサップ医師の弟の奥さんのその又弟というなんともややこしい関係なのですが、シャイで無口、でも真面目な男性でとても楽しく仕事をする事が出来ました。

JADDO とラオスをこよなく愛する私と致しましては、本年も色々な形で協力を惜しまないつもりです。私事ではありますが、昨年は一月にコロンビアアルメニア地震災害救援に国際緊急援助隊の看護婦隊員として派遣されたのを皮きりに、三月には帖佐先生に同行しての調査の旅、八月からは AMDA という NGO の難民支援プロジェクトのメンバーとしてコソヴォ自治州へ、そして今回の旅。文字通り世界を飛び回る一年でした。今年も今年の活動を糧に日々精進を重ねていきたいと思っております。

JADDO 会員の皆様、2000 年も自分の出来る事を少しづつ、けれど着実に、活動を続けていきたいと思います。

[事務局からのお知らせ]

1, 新規会員(1999、12月～2000,5月)の皆様です。(以下、敬称略させていただきます。)

太田有紀、西谷ひとみ、中司裕子、松永武志、藤本英雄、土屋豊和、梅田武雄、

2, 平成11年度会費納入の皆様です。(1999年12月以降)

荻原 真佐子、今井祐介、下尾崎健一、長友由紀子、高木史江、土元早苗、茂木隆、
土川京子、神彰男、坂上恵子、吉満裕市、今村久美子、中司裕子、松永武志、
藤本英雄、土屋豊和、梅田武雄、濱田優子、竹田美浩、愛甲明実、西谷ひろみ、
中村吉治、太田有紀、田畑福男、

3, 机、いす募金の皆様です。(1999、12月～2000,5月)の皆様です。

西岡美紀、林亜紀、橋本治富、山下巖、木原兼博、山陸裕康、杉原敏彰、
尻無浜むつみ、宇津木和夫、宇津木和子、若松あつ、上野昌子、藤井洋、帖佐宗親、
帖佐久子、川添寿、川添智恵、ハートフル(株式会社)、神田安代、小林沙織、
楡井貴子、新井良子、清宮美佳、穴久保廣美、中村律子、猿楽久美、横林宙世、
森田正人、山中綾子、宮脇美智子、小幡順子、熊谷銀次郎、店網国二、川添恵、
竹田美浩、今井裕介、青山一正、小林義郎、桑原美智子、坂上恵子、鮫島久志、
鮫島節子、重信益男、重信延子、仲間俊豪、仲間実希子、仲間悠介、神田堅司、
神田スミエ、

4、ご寄付の皆様です。

久木野勲、長友由紀子、高木史江、神彰男、坂上恵子、尻無浜むつみ、今村久美子、
青山カンピューご夫妻、青年海外協力隊OB(バザーの収益金より)、
若松郁子、Siau Bee Ser n(シンガポール在)、

毛布の寄付金有難うございました。、

皆様の善意で 92,300円 集まりました。有難うございました。以下、寄附者の皆様です。(敬称略させていただきます。)

純心女子大学、高城保育園、清水ヶ丘保育園、中村律子、青山カンピュー、仮屋洋子、山本恵美子、神崎侯至、是枝久子、久木野勲、枇杷繁、若松郁子、わかまつ園、

《 会費納入のお願い 》

じゃっど 会員更新の時期になりました。平成12年度(平成12年7月1日～平成13年6月30日)も、宜しくご支援いただきますようお願い致します。なお、年会費は一人2000円です。①～③の中からお選びください。

①会費自動引き落とし(郵便貯金口座) 7月中に手続きをお願いします。

②郵便振替 口座番号 02050-2-4746

口座名称 JADDO (用紙を同封してあります) 今回から振込料金70円は会員負担にさせていただきます。(受領確認のはがき代が必要なため)

③ 現金払い(若松記念病院となり寿泉堂内 じゃっど事務局)

ラオスの学校に机とイスを！！

8月のじゃっどボランティア活動派遣時に寄付者の記名作業をします。是非、机、いす募金にご協力下さい。(申し込みは同封の用紙をご利用下さい。7月中受付。)

* じゃっどニュースレター編集のお手伝いをしてくださる方を募集しています。(宮脇)